

第6学年 保護者の皆様

旭川市立東栄小学校
校長 加藤 広章

令和5年度 全国学力・学習状況調査の結果の概要について（お知らせ）

令和5年4月18日（火）に実施いたしました「全国学力・学習状況調査」の本校6年生の全体傾向を分析し、概要等を下記のとおりまとめましたのでお知らせします。

本校では、成果や課題を把握・検証して、子どもたち一人一人の学習状況の改善や学習意欲の向上等につなげるよう教育実践を進めて参りますので、ご理解のほどよろしくお願いいたします。

記

1 分析の概要

国 語	
成 果	<ul style="list-style-type: none"> ○「知識・技能」の「漢字を文の中で正しく使う」「文章の種類とその特徴についての理解」など、「言葉の特徴や使い方に関する事項」で比較的高い正答率がありました。 ○「思考力・判断力・表現力等」の「目的に応じて文章と図表などを結び付けて必要な情報を見付ける」で高い正答率がありました。
課 題	<ul style="list-style-type: none"> ▲全般的に「思考力・判断力・表現力等」の正答率が低く、特に「文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめる」「必要なことを質問しながら聞き、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの内容を捉える」で正答率が低くなりました。 ▲「知識・技能」の「日常よく使われる敬語の理解」の定着が比較的不十分でした。

算 数	
成 果	<ul style="list-style-type: none"> ○「知識・技能」の「一の位が0の二つの2位数についての乗法の計算」で高い正答率がありました。 ○「思考力・判断力・表現力等」の「伴って変わる二つの数量の関係が、比例関係でないことを説明する」で特に高い正答率がありました。
課 題	<ul style="list-style-type: none"> ▲「知識・技能」の「正三角形の意味や性質についての理解」「加法と乗法の混合した整数の計算をしたり、分配法則を用いたりする」「百分率で表された割合についての理解」「二次元の表から、条件に合う数を読み取る」で正答率が低くなりました。 ▲「思考・判断・表現」では、椅子4脚の重さが7kgであることを基に、48脚の重さの求めることが不十分でした。 ▲全国、全道の傾向と同様に「図形」領域の定着が不十分でした。様々な三角形や四角形の意味や性質について理解することが必要です。

改善策	<ul style="list-style-type: none"> ○「書くこと」については、昨年度から向上は見られるものの全国、全道の傾向と同様に課題となっています。今後も朝学習での視写の取組を継続し、学年に応じた「文章の型」を身に付けるよう学びを発展させていきます。 ○学習の基盤となる「知識・技能」の確実な定着を図るため、朝学習でのプリントやワークを用いたドリル学習を徹底します。 ○「基礎的・基本的な計算の技能」を向上を目指し、算数の授業開始時に「マス計算」を取り入れます。 ○「図形」領域の苦手克服に向けて、廊下に体感的に学ぶことができる特設コーナーを設置し、図形の移動や空間の位置関係などをイメージする力を身に付けます。
-----	---

2 児童質問紙から

(1) 全国平均より高い傾向を示した質問事項（抜粋）

- ①先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれている。
- ②将来の夢を持っている。
- ③いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う。
- ④家で自分で計画を立てて勉強をしている。
- ⑤学校の授業時間以外に、普段、1日当たりどのくらいの時間、読書をする。
- ⑥日本やあなたが住んでいる地域のことについて、外国の人にもっと知ってもらいたいと思う。
- ⑦5年生までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた。
- ⑧5年生までに受けた授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていた。
- ⑨5年生までに受けた授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていた。
- ⑩学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができた。
- ⑪総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいる。
- ⑫あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めている。
- ⑬学級活動における学級での話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいる。
- ⑭道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいる。
- ⑮国語は好きである。
- ⑯国語の授業の内容はよく分かる。
- ⑰国語の授業で、物語を読むときに、登場人物の性格や特徴、物語全体を具体的にイメージし、どのような表現で描かれているのかに着目している。
- ⑱算数の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思う。
- ⑲今回の国語の問題では、解答を文章で書く問題がありました。それらの問題について、最後まで書くことができた。
- ⑳今回の算数の問題では、言葉や数、式を使って、わけや求め方などを書く問題がありました。それらの問題について、最後まで書くことができた。

(2) 全国平均より低い傾向を示した質問事項（抜粋）

- ①自分には、よいところがある。
- ②人が困っているときは、進んで助けている。
- ③普段の生活の中で、幸せな気持ちになることがある。
- ④土曜日や日曜日など休みの日に、1日当たりのどれくらいの時間、勉強する。
- ⑤新聞を読んでいる。
- ⑥読書が好きだ。
- ⑦今住んでいる地域の行事に参加している。
- ⑧地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う。
- ⑨外国の人と友達になったり、外国のことについてもっと知ったりしてみたいと思う。
- ⑩5年生までに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用している。
- ⑪算数の勉強は好きである。
- ⑫これまで、学校の授業以外で、英語を使う機会があった。
- ⑬家庭学習の課題（宿題）として、どの程度PC・タブレットなどのICT機器を使用して、英語の音声を聞いたり英語を話す練習をしたりしている。

3 今後に向けて

(1) 学びを深める授業づくり ～ICTの活用による学習内容の確実な定着～

- 自ら創る・分かる・楽しい授業を推進するため、学びのプロセスを子どもたちに確実に定着を図り、主体的に子どもが活動する場面を設定します。また、ICTを自ら選択して効果的に活用する基本スキルの定着に努めます。

(2) 落ち着いた学級づくり ～学校全体で取り組む学びの環境づくり～

- 小中連携による育成を目指す子どもの姿を基に学習ルールの継続的な指導に努めます。
- 児童会の取組「いじめゼロ宣言」や「いいこと発見ポスト」、「あいさつ運動」等を通してすべてを受け入れ認め合う人間関係づくりに努めます。

(3) 望ましい生活習慣づくり ～発達段階を踏まえた、自ら学ぶ力の育成～

- 健康・生活チェックシートや個人懇談等を活用しながらアウトメディアへの意識を高め、学習・生活習慣等の見直しについて家庭との連携に努めます。
- 「家庭学習の手引き」を見直し、学年に応じた身に付けるべき学びの姿の明確化を図ります。また、家庭学習や読書、外遊びなどの放課後時間の有効な使い方について家庭との連携に努めます。